

アリストテレス Aristoteles 384 ~ 322B.C.

古代ギリシアの哲学者・科学者。マケドニアの南方カルキディケ半島にあるスタゲイロスで、マケドニア王の侍医ニコマコスを父として生まれる。彼は 17 歳でプラトンの学園アカデメイアに入り、約 20 年間プラトンに学んだ。前 343 年にマケドニア王フィリプス 2 世に招かれ、13 歳の王子アレクサンドロス(のちのアレクサンドロス大王)の家庭教師となった彼は、前 335 年 49 歳の時にアテネにもどり、リュケイオンという学園を開いた。彼が教育を重視していたことは、「教育の根は辛い、その果実は甘い」(『哲学者列伝』5-18)という言葉に端的に示されている。リュケイオンは図書館や博物館といった施設を備え、高度に組織的な研究組織をもった大学のようなものであった。アリストテレスの学派がペリパトス学派(逍遥派)とも呼ばれているのは、彼がリュケイオンのペリパトスと呼ばれる回廊を歩きながら弟子の教育に当たったことによる。

前 323 年にアレクサンドロス大王が死去すると、アテネは反マケドニア的空氣に満たされた。アリストテレスもこの雰囲気の中で不敬虔のかどで訴えられたため、学園を弟子のテオプラストスに譲って、カルキスに引退した。彼は翌年 62 歳で病没している。

アリストテレスの著作は、生前に刊行されたものはほとんど散逸して残っていないが、彼の講義を記録したものが残されているので、その思想や業績の概要を知ることができる。

Great Books 12 ニコマコス倫理学(Ethica Nicomachea)

アリストテレスの三つの倫理学書の一つ。全 10 巻。リュケイオンでの講義録。この名称が付けられたのは、アリストテレスの子ニコマコスのために書かれたためとか、ニコマコスがテオプラストスの助力によって編纂したためとも伝えられている。この書によって、「倫理学」という学問が確立された。

アリストテレスは、人間における人生の目的や徳に基づく魂の活動、つまり、人間の生き方を研究した。『ニコマコス倫理学』において彼は、個人としての人間を探求するのではなく、人間は社会(共同体やポリス)を形成し集団で活動する動物であるという視点から、人間を「社会的存在(ポリティコン)」ととらえた。また、人生の目的とすべき究極の善は幸福であると結論した彼は、徳が幸福をもたらすと考えて、さまざまな徳や悪徳について考察を重ねた。徳には勇氣・節制・正義などが挙げられたが、彼が最も重視した徳は「友愛(ピリア)」であった。人間は、まわりの状況によって徳をいかようにも判断する。それゆえ彼は、徳を成り立たせているその本質は「中庸」であると考えた。そして彼は、徳がどのような状況に置かれているか分析することを「観想活動(テオリア)」と名付け、これを完全な幸福の状態であると考えた。

Great Books 13 詩学(Peri Poetica)

『詩学』は、アリストテレスがリュケイオンで行った講義録である。「詩作の技術について」という原題が表わしているように、詩や悲劇の構造論的な技術が書かれている。

アリストテレスがこの講義を行った時代、アテネはアレクサンドロス大王のマケドニア王国の支配下にあり、三大悲劇詩人たちが活躍した頃から 70 年以上も経って文化的には停滞期にあった。特に悲劇は優れた作家の出現がなく、舞台効果を狙った煽情的なものになっていた。このような状況の中で、アリストテレスは、ホメロス『イリアス』・ソポクレス『オイディプス王』・エウリピデス『タウリケのイピゲネイア』を分析し、それを基にして詩作の原理を見つけようとした。

当時の文学作品は韻律を用いて作られていたが、アリストテレスは韻律を持っているものがすべて文学作品であるとは考えなかった。彼の判断の基準は、作品が人間行為を模倣・再現(ミーメシス)しているかどうかによったものである。彼は真の文学作品は最高の普遍的真実を捉えたものだと考え、それによってもたらされる感情の高揚が、我々の精神の浄化(カタルシス)につながることを強調した。

『詩学』の主な部分は、詩の構造とその機能についての実例をもとにした説明であり、ギリシア悲劇で重要な役割を果たす機械仕掛けの神や、運命、偶然といったものには触れていない。これらの道具立てがなくても、設定の必然的帰結として逆転的な出来事が起きた(メタバンス)時に最も大きな効果が得

られることを記した『詩学』は、ギリシア時代にとらわれない普遍的な文学論であった。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 ニコマコス倫理学(西洋古典叢書) / 朴一功(訳)
京都大学学術出版会 2002年刊 578, 32p <131.4LL / 111> 資料番号 21502323
- 📖 詩学・詩論(岩波文庫) / 松本仁助, 岡道男(訳)
岩波書店 1997年刊 356p <1901 / 7> 資料番号 20907200
- 📖 世界の名著8 アリストテレス / 田中美知太郎(編)
中央公論社 1972年刊 622p <080 / 5 / 8> 資料番号 12784260
* 内容: 詩学 / 藤沢令夫(訳)
- 📖 ニコマコス倫理学 上・下(岩波文庫) / 高田三郎(訳)
岩波書店 1971 ~ 1973年刊 <1131 / 7 / 1a ~ 2a>
- 📖 世界古典文学全集 第16巻 アリストテレス / 田中美知太郎(編)
筑摩書房 1966年刊 487, 22p <908 / 29 / 16> 資料番号 11876141
* 内容: 詩学 - 創作論 / 藤沢令夫(訳)
- 📖 世界大思想全集 哲学・文芸思想篇21 / 小場瀬卓三(ほか訳)
河出書房新社 1960年刊 336p <080 / 3 / 1-21> 資料番号 10134310
* 内容: 詩学 / 北条元一, 戸張智雄(訳)

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 アリストテレス入門(ちくま新書) / 山口義久(著)
筑摩書房 2001年刊 222p <131.4MM / 112> 資料番号 21555099
- 📖 アリストテレス『詩学』の研究 上・下 / 當津武彦(著)
大阪大学出版会 1999 ~ 2000年刊
<901.1JJ / 163 / 1 ~ 2> 資料番号 21247820, 21344536
- 📖 アリストテレス / G. E. R. ロイド(著) 川田殖(訳)
みすず書房 1998年刊 283, 32p <131.4GG / 107> 資料番号 21057641
- 📖 アリストテレス / 日本倫理学会(編)
慶応通信 1986年刊 217p <131.4U / 13> 資料番号 12303285
- 📖 人類の知的遺産8 アリストテレス / 今道友信(著)
講談社 1980年刊 435, 7p <280.8K / 13 / 8> 資料番号 10497154
- 📖 アリストテレスの哲学 / D. J. アラン(著) 山本光雄(訳)
以文社 1979年刊 243, 6p <131.4L / 10> 資料番号 10210581
- 📖 アリストテレス・フォー・エブリボディー
/ モーティマー・J. アドラー(著) 下島連, 若林彰(共訳)
日本ブリタニカ 1979年刊 303p <131.4 / 113> 資料番号 21555610
- 📖 アリストテレス(岩波新書) / 山本光雄(著)
岩波書店 1977年刊 226p <131.4 / 104> 資料番号 20709242
- 📖 アリストテレス全集 全17巻 / 出隆(監修) 山本光雄(編)
岩波書店 1967 ~ 1973年刊 <131.4 / 4 / 1 ~ 17>